

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回藤井寺市環境保全審議会
開 催 日 時	令和8年7月7日（火） 15時00分から16時30分
開 催 場 所	藤井寺市役所 厚生棟 研修室
出 席 者	【藤井寺市環境保全審議会委員】 鯉坂委員、家田委員、梅本委員、尾上委員、 清水委員、森委員、山田委員（五十音順） 【事務局】 松宮市民生活部長、村上環境衛生課長、 寺田課長代理（記録）、古川チーフ、五島主査、藤田副主査 【傍聴者】 1名
議 事	（1）市民アンケートの結果について （2）他自治体のごみの分別及び収集方式・形態等について （3）次回審議会について
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
資 料	（資料1）アンケート結果 （資料2）他自治体のごみの分別及び収集方式・形態等について

協 議 内 容

1. 開 会

2. 委員の退任の報告及び新たな委員の委嘱について

- ・伊藤委員の退任及び梅本委員の委嘱

3. 議事

(1) 市民アンケートの結果について

- ・事務局より資料1の説明

【委員からの意見等】

鰐坂会長：

ギリシャ数字Ⅱ㊦の容器包装のプラスチック分別についてでは、分別すべきと言う人は、費用をかけてでも必要という意見が多数を占めるが、分別の必要がないという意見では、費用がかかることが要因となっていることがわかる。

山田委員：

思ったより戸別収集をしてほしいという意見が多くなかったことに驚いた。

事務局：

住まいの形態ごとにクロス集計しても、戸建てで戸別を望むが42%と多いが、望まないが20.8%、どちらでもが37.2%、共同住宅では望むが8.5%、望まないが46.8%、どちらでもが44.7%であった。

自由意見としては、望む方は「責任感が生まれる」「近隣トラブルが解消される」など。望まないの回答は「戸別の負担費用が勿体ない」「戸別の恩恵を受けない」となった。

鰐坂会長：

分別については、分別の必要性がわからないという意見もあったので、周知する必要がある。

森委員：

資源ごみの回収について、ビンとカンと一緒に収集されている。本来の目的に達してないのではないかと。

また、自販機の横に設置されるゴミ箱の設置に関する罰則等がないが、どう考えているか。

事務局：

ビンとカンについては、市民が廃棄する段階では一緒だが、柏羽藤クリーンセンターで手作業等で分別し、資源化している。

自販機横のベンダー回収BOXについては、環境衛生課としては今のところ対応は考えていない。一度、現状を確かめたい。

清水委員：

他市から来た人は、藤井寺は分別していないとよく聞く。分別を強化しても良いのでは。柏羽藤クリーンセンターの見学なども必要だと考える。

鯉坂会長：

別の行政では、小学校でクリーンセンターを見学し、環境学習として組み入れている。

梅本委員：

大阪府でも循環型社会推進計画を策定し、その中でプラスチックごみの対策・推進を掲げている。プラごみを焼却することで府として3～4%の温室効果ガスが発生するとされている。

また、ナフサ不足などもあり、リサイクルの重要度は増している中、なるべく上流部分（家庭など）で分別・リサイクルすることが重要。自由意見でも、焼却と分別どちらが環境にやさしいかわからないということもあり、周知することが重要だと感じた。

家田委員：

アンケートで、プラごみをリサイクルすべきと回答した人が、次の設問では費用がかかるならしなくてよいが半分近くになるので、負担がかかるという部分が問題となる。

第1回で説明を受けた焼却場の建て替えや埋め立て地の問題など、大きなところで分別の意義を見出すほうがよいのでは。

鯉坂会長：

費用の内訳と言うか、その部分でわかることがあれば。

事務局：

具体的な数字は今すぐ示せるわけではないが、費用面だけではなく、焼却処分することによるCO2発生を抑制する必要も有り、環境面と費用面との両輪で考えなくてはならない。今回のアンケートでは、市民の皆さまも同じように、特に費用面に興味があることがわかったので、その部分もしっかりと説明していかななくてはならないと感じた。

鯉坂会長：

費用面の話が出たので、ギリシャ数字Ⅳのごみ処理費用と戸別収集の項目について。

①では、全て税金で賄うべきが半数となった。②では、自己負担するとなれば60%の方がエコ意識が高まるという回答となった。

自由意見では戸別収集について、責任感が生まれるという意見がある一方、戸別化の費用負担が勿体ないなど、相反するような回答が見られた。これについてどうか。

尾上副会長：

個人的には、全て税金で賄うべきと言う項目がもっと高いと思っていた。むしろ市民からも、費用対効果が得られるのであれば負担してもいいという、市民が必要な分は市民自身が負担しようとする意思も見受けられたと感じた。

ただ、非常に丁寧な費用面での説明が必要かと。

梅本委員

アンケート全体的に、しっかりと回答いただいている。現状維持を希望する声は多いが、ごみ問題を身近に感じ、自分事として関心を持たれて、前向きな意見も見受けられるように感じた。

鯉坂会長：

市民の中にも、ある程度の負担をしてもするべきという意見も一定有ることが期待の持てると

ころと感じている。

次に、ギリシャ数字ⅤとⅥについて。Ⅴは現在のごみの捨て方から、Ⅵはこれからのごみの捨て方についての設問だが、現状のごみについては、現状のままと言う意見が多い。Ⅵは多少意見が分かれるところかと思うが、Ⅲの食品ロスも含め意見があれば。

森委員：

趣旨から少し離れるが、最近町会に入らない方が増えている。それでも、町会費を払わず、ごみ出しについて、恩恵を受けているのはいかがなものかと感じているが、藤井寺市はどのように考えているのか。

事務局：

市としては、町会に加入するしない関わらず、ごみ出しについては、そのステーションごとの利用者内でルールを決め維持管理してもらっている。ただ、昔からあるコミュニティで、一定維持管理してきた部分もあるため、そう感じる方もわかる。現状として、町会に加入しない方のほうが多くなったと言われている。まさに、このような問題を、市民の方はどのように感じているか、その解消方法として戸別収集を検討していると言える。戸別にすることで自分の家の前にごみを出し、その分だけに責任をもって処理する。そうすることで今の不公平感を無くせるのではと考えている。

清水委員：

町会に入るようお願いする際に、ごみのことで問題になることがある。町会に入らないと出せないとなると、戸別に出していいのかと言う。

事務局：

難しい問題だと認識している。戸別を安易に認めていないため、先ほどでもあるように、町会に入っている入っていないは別にしてステーションの利用者間で話し合ってもらいたい。

戸別収集においては、ごみの減量に貢献できるという面と、実情としてある、まさにトラブル等を解消できる面も期待している。

鰐坂会長：

時間の都合上、資料２の説明に移る。

（２）他自治体のごみの分別及び収集方式・形態等について

・事務局より資料２の説明

【委員からの意見等】

鰐坂会長：

今の説明につき、何か質問等はあるか。

尾上副会長：

事業系ごみの混入対策として、一部事務組合の展開検査は必須。

次回に、現状柏羽藤クリーンセンターで行われている展開検査の内容を教えていただければ。

山田委員

事業系は有料の回収となっているが、ペットボトルをそこに入れてしまう。資源化を目指すな

ら、事業系のペットボトルの取扱いを考えるほうが良いのでは。

鯨坂会長：

他市での事例を調べてみてもいいかと。

梅本委員：

3 ページの類似団体の比較表を見れば、収集種別や頻度などにかかなりの差があることがわかり、興味深いデータとなっている。説明の最後にもあったが、これらに対し、具体的な検討を進めていけばと。

また、ごみ処理費用の一部を市民に負担いただくのは、ごみの減量の観点からも有効であり、納得感のあるコスト負担について、他市の事例を調査研究するなどしながら、今後検討を進めていただければと思う。

山田委員：

前回の審議会では、最終残土の処分地がないということも問題だと言っていたが、どんなごみを減らせればいいのか。全部減らせればいいのはわかるが。

事務局：

埋め立てる場合、主に燃やした後にできる灰と、一部、瀬戸物や陶器類などがある。これらを如何に燃やさず、また資源化できるかというところ、つまり分別することで、問題の解消につながる。

鯨坂会長：

それに加え、先ほどにも話があったように、上流での対応と言うのもより必要になると思う。それでは、次回審議会について、事務局より願います。

（3）次回審議会について

事務局：

手数料について他自治体の情報、本市による制度設計とそれに伴う効果見込み、環境事業組合の展開検査の内容と事業系の混入状況などを資料としてまとめて提示したい。

鯨坂会長：

これで、全ての議事が終了したので、事務局に進行を引き継ぐ。

事務局：

本日の会議内容は公開となり、会議録作成後、会長に確認いただき、HP 等に掲載する。
次回審議会は10月頃を予定。

4. 閉会